

長野県の二地域居住等促進と メンバーシップ制度創設に向けた方向性

長野県 企画振興部 信州暮らし推進係

電話 026(235)7024 (直通)

E-mail iju@pref.nagano.lg.jp



長野県の概要



- 人口 198.5万人
世帯 85万世帯 R7.1現在
- 南北に長く、地域によって気候、文化、産業などが異なる
- 県土の約8割が森林
可住地面積が少ない
- 東京圏・中京圏から200km圏内に位置。近年の交通ネットワークの整備により都市部からのアクセス性が向上
- 大きく4エリア（県の行政区画は10地域）に分かれる
- 77市町村で構成
 - ・ 19市、23町、35村
 - ・ 自治体数が全国2位（村の数は全国1位）

コンセプト

- 信州らしい働き方、暮らし方の提案（新しいライフスタイルの創出）
- 「移住したい県」NO.1から、「暮らしてよかった県」NO.1へ

改定の考え方

- コロナ禍における人の意識や社会の変化は、地方にとって追い風（好機）であると考え、都市圏から長野県への人や企業の呼び込みを一層強化していく

現状

社会動態・移住の動向

- 社会減（県外への転出超過）**
 - ・ あらゆる産業で人材が不足、地域の担い手が不足
 - ・ 進学、就職を契機とした県外転出による若者の減少
- 新たな働き方・暮らし方への関心**
 - ・ 理想とする生活、価値観の多様化（都市部を中心にトレンド変化）
- 地方創生の流れ**
 - ・ 全国各地で移住施策の推進を強化

「地方回帰」機運の高まり

コロナ禍を契機とした意識の変化、テレワークの普及等により、首都圏の住民（特に若者）や企業を中心に地方での生活や働き方への関心が向上

信州暮らしの魅力、強み

「信州」が持つブランド力と“お金に換えられない”多様な価値の提供

- 雄大な自然、伝統文化や地域の人とのつながり、地方ならではのゆとりある生活
- 信州やまほいく、山村留学をはじめとする特徴的な教育環境の充実
- これまでそれぞれの地域が育ててきた観光資源、健康長寿、食文化などの認知度の高さと訴求力
- 市町村ごとの強みや特色を活かした多彩な施策

三大都市圏からのアクセスの良さ

- 心理的にも距離的にも適度な都市圏との近接性、選べる移動手段に加え、将来的に新たな交通網が整備 ▶ 移住に加え、テレワークや二地域居住の適地

展開

主なターゲット

今後、施策の対象としてさらに注力していく層

若者・子育て世代

地域の活性化、活力創出に大きく寄与する層

▶ 以下のタイミングを捉えて積極的にアプローチ

- ・ 転職、子の入園・入学、持ち家購入などのライフステージ変化時
- ・ 会社のテレワーク導入などに伴うワークスタイル変化時など

具体的な取組の方向性（プロジェクト）▶ 県・市町村・民間企業等のオール信州の体制で取組を推進

【重点】1 働く場としての信州の展開 “仕事と暮らし”をセットで呼び込み

- ・ 住まいだけでなく、暮らしを支える仕事もセットにして取組を展開
- ▶ 特に地域活性化に寄与する人材・企業に積極的にアプローチ

新しい働き方をする人材・企業

人材：テレワーク、副業（複業）・兼業など
企業：テレワーク推進に取り組む企業（本社機能、サライトワイス）

産業や生活を支える人材、人を呼び込む中核・ハブ人材

プロフェッショナル人材（高度人材、医療、福祉、各種資格・技能職）、クリエイティブ人材（起業、個人事業主等）、就農・就林、地域おこし協力隊など

【重点】2 「つながり人口」にフォーカス “地域のファン”を増やす

- ・ 必ずしも移住・定住をゴールとしない、二地域居住者や地域の人々と多様に関わる人を増やす
- ・ 地域に関わりたいと考えている人や企業が実際に「地域や地域の人とつながる」場や仕組みをつくる

3 多様な住まい方を支援

- ・ 移住検討者が求める住まい方をサポート
- ・ 各種住宅支援策、空き家利活用の取組を推進

4 地域への定着・交流を支援

- ・ 移住者の不安を和らげるため、移住前後で地域住民につなぐ取組を推進

5 情報発信の強化

- ・ ターゲットに訴求する地域の暮らしや仕事、子育て環境等の情報を様々な媒体を活用して発信

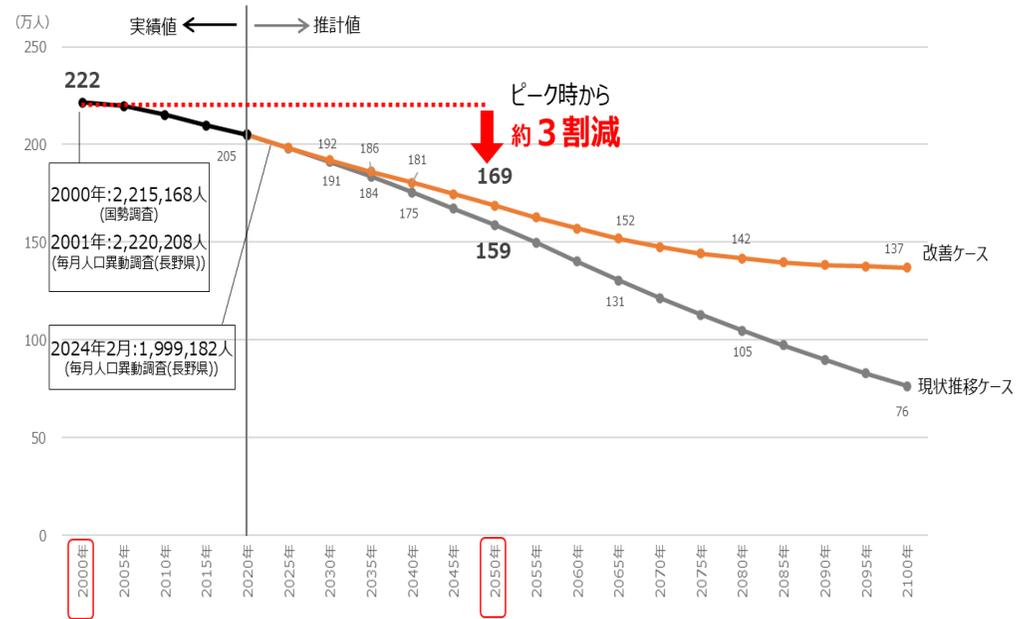
6 民間事業者等との連携・協働の推進

- ・ 多様なニーズに的確に応えるため民間事業者や団体と連携した移住支援策、イベント等を実施

長野県の人口推計と将来への影響

(人口の現状と推計)

- 長野県の2050年の将来推計人口は、現状推移ケースでは159万人、改善ケースでも169万人となり、現状のまま何もしなければ、2001年のピーク時から約3割減少する「**7がけ社会**」が到来する見通し



出典：2020年までは国勢調査（総務省）、2025年以降は長野県企画振興部推計

- 長野県の合計特殊出生率は1.34、全国を上回っているものの4年連続で低下。今後、ただちに出生率が改善したとしても、しばらくの人口減少は不可避
- 高齢化が進み、2050年には高齢者が総人口の4割を超える見通し
- 20～24歳の転出超過が最も大きく、同世代の女性の転出超過が最も深刻。一方で、30～39歳の子育て世代は転入超過が続いている

信州未来共創戦略

みんなで作る2050年の長野 (仮)



担い手不足



医療・福祉・交通
・物流サービス低下



地域のコミュニティ
弱体化



インフラや行政サービスの維持



社会保障
税負担が増加



消費の減退
産業の競争力低下



空き家や空き地の増加
娯楽施設の撤退

2050年

7がけ社会がやってくる!?

2050年の長野県は…

- 人口は2001年のピーク時から約3割減少 (159万人)
- ただちに出生率が回復してもしばらく人口減少は続く
- 高齢化率は4割超
- 現在、若者、特に女性の転出超過が深刻 など

長野県が
100人の村とすると

2020

総人口は
78人の村となり

2050

| | | | |
|----------|-----------|----|-----------|
| 65歳以上 ☹️ | 32人 (32%) | ➡️ | 33人 (42%) |
| 15~64歳 😊 | 56人 (56%) | ➡️ | 38人 (49%) |
| 0~14歳 😊 | 12人 (12%) | ➡️ | 7人 (9%) |



ひとり一人にあった
学びの実現



誰もが社会で
活躍できるチャンス

人口減少下の 希望の種



新たな
ビジネスチャンス



行財政改革や
まちの再生



AI・ロボット技術等
の飛躍的な発展

約150回の意見交換を実施

県民をはじめ長野県に縁がある方々と、人口減少の現状を共有し、2050年のありたい姿を考えました。(約150回、3,000人が参加)

- HOPE2050若者との県民対話
—共に創ろう信州の未来を—
知事と若者との県民対話を県内4か所で実施。
若者の視点で2050年のありたい姿を考えました。

「ありたい姿」

を実現するには
現状を続けていくだけ
ではダメ!

Re-think

“当たり前”を問い直す
考え方のパラダイムシフト
が必要

再配達って
当たり前?

地域の
お茶くみは
女性のしごと?

信州未来共創戦略

みんなで作る2050年の長野

LET'S!

寛容な社会づくり

① 若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり

若者 ▶ 若者の可処分所得が県民平均以上に向上

性別 ▶ 家事・育児時間の男女格差 **2.0倍未満**

子育て ▶ 男性の育児休業取得率 **85%以上**

子ども ▶ 全天候型の子どもの遊び場が増える

多様性 ▶ 無償で日本語や日本文化を学ぶ場がある

学び ▶ 最先端のSTEAM教育[※]・英語教育

※STEM(科学Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)を統合的に学習する教育に、芸術(Arts)の創造性教育を統合する教育手法

2050
ありたい姿

みんなで達成しよう!

2030

の旗

今の子どもたちが大人になる

2050年に向け、

2030年までに達成したい

当面の目標

(主なもの)

LET'S!

信州暮らし

② 信州の強みを活かした移住・関係人口の増加 ～暮らし、つながる仲間を増やそう～

▶ 年間移住者数 **10,000人以上**

▶ 移住希望地ランキングで**1位を獲得**

LET'S!

まち・むらづくり

③ 安心・便利で持続可能な生活圏の整備促進 ～県土のグランドデザインを策定・実現しよう～

▶ 安心・便利で持続可能な県土のグランドデザインをつくる

▶ コンパクト・プラス・ネットワーク&レジリエンス[※]によるまち・むらづくりについて議論し、具体的な事業に着手

※住居や商業施設、公共施設等が適切に配置され、そこに交通ネットワークならびに情報ネットワークで利便性高くアクセスでき、防災力にも優れた圏域を形成すること

LET'S!

経営等の革新

④ 変革期を乗り越える経営等の革新

労働生産性・グローバル

▶ 多くの事業所がDXやリスクリングを積極的に推進

▶ 訪日外国人旅行者の観光消費額 **1,000億円**

人材・省力化

▶ 女性の就業率を**70%以上**とし、高齢者の就業率**全国1位**を維持

▶ 法定雇用率適用事業所で雇用される障がい者数 **9,000人以上**

共創

▶ 圏域ごとに行政体制のあり方について議論され、それを踏まえた取組が行われている

2 信州の強みを活かした移住・関係人口の増加 ～暮らし、つながる仲間を増やそう～

2050年にありたい姿

- 東京一極集中の是正等により、進学・就職の際にやむを得ず長野県を離れる若者が著しく減少している。
- 長野県が暮らし地域としてさらに魅力ある存在となり、Uターン者も含めて移住する人数が増え、人口の社会増が継続している。
- 全国トップクラスの二地域居住等の関係人口数を誇り、そうした方々の知見やネットワークにより、長野県の魅力が一層高まるような正のスパイラルが生み出されている。
- 魅力あふれる信州教育が、子どもたちや保護者、教員志望者をひきつけている。

2030年に目指す旗

- ・「移住促進地域制度（仮称）」などにより、**県内への移住者数が年間10,000人以上**となっている。
※3,363人（2023年度）
- ・ふるさと回帰支援センターの**移住希望地ランキングで1位**を獲得している。※4位（2023年）
- ・**二地域居住者等にメリットがある「二地域居住等メンバーシップ制度（仮称）」が創設され、登録者数が20,000人以上**となっている。
- ・企業や大学等が人材とともに長野県に移転する動きが活発になっている。
- ・全国募集を実施する県立高校を4校以上に増やし、多くの入学志願者を集めている。
※2校（2024年）
- ・教員の処遇改善が進み、教員を志望する人数が増加している。

長野県の二地域居住促進の方向性

～二地域居住により、多様な生き方・働き方の実現を応援します～

二地域居住促進の趣旨

二地域居住は、人々の交流や新たなビジネスの誕生などによる、地域経済の活性化、コミュニティの再生などのほか、多様で柔軟な生き方・働き方の実現が期待されます。県では、人口減少社会での地域活力向上のため「**マルチタスク（一人多役）・マルチハビテーション（多拠点生活）**」の実現を目指し、二地域居住を官民連携で積極的に促進し、人々の**多様な生き方・働き方を応援**していきます。今回、改正広域的地域活性化基盤整備法に基づく県計画「広域的地域活性化基盤整備計画（二地域居住）」を**全国で初めて策定**しました。

計画の概要

広域的地域活性化のための基盤整備に関する法律第5条第1項に基づき、二地域居住促進に係る拠点施設や、その整備を特に促進すべき重点地区を示すために策定するもの。今回、塩尻市分を先行的に定め、随時市町村を追加予定。

県の今後の取組

- ・県内市町村や民間企業と連携して、以下の取組により二地域居住を強力的に促進し、多様な生き方・働き方の実現を応援していく。
- ・共同代表である全国二地域居住等促進官民連携プラットフォームの枠組みを活用し、課題解決に向けた検討や、国への二地域居住促進制度導入の働きかけを実施。

長野県

二地域居住促進による

マルチタスク・マルチハビテーションの実現

首都圏等

多様性・寛容性の向上

地域の活性化

知見の流入

- ・「二地域居住等メンバーシップ制度（仮称）」の創設
- ・二地域居住者等の高度な知見やスキルを地域の活性化につなげる仕組みづくりの検討

- ・「地域の教科書」作成による二地域居住者等と地域住民の相互理解推進

エリアを横断するビジネス促進

- ・信州ワーキングホリデー
- ・信州リゾートテレワーク
- ・おためしナガノ

多様な働き方

目標

【信州未来共創戦略に位置付けた目標（2030年）】

「二地域居住等メンバーシップ制度（仮称）」が創設され、登録者数が20,000人以上となっている。

長野県広域的地域活性化基盤整備計画（二地域居住）

【長野県】

| | | | | | |
|---|--|---------|---------------------|---------------------------------|-----------------------|
| 市町村名 | 塩尻市 | | | 計画期間 | 令和6年度～令和10年度 |
| 計画概要 | ※別紙（長野県の二地域居住促進の方向性）添付 二地域居住は、人々の交流や新たなビジネスの誕生などによる、地域経済の活性化、コミュニティの再生などに加え、多様で柔軟な生き方・働き方の実現が期待される。人口減少社会では「マルチタスク（一人多役）・マルチハビテーション（多拠点生活）」が重要であり、長野県ではその実現に向け、二地域居住を官民連携で積極的に促進し、人々の多様な生き方・働き方を応援していく。 | | | | |
| 特定居住拠点施設に関する事項 | | | | | |
| No | 拠点施設の区分 | 施設の内容 | 所在地 | 整備主体 | 備考 |
| 1-1 | コワーキングスペース | スナバ | 塩尻市大門八番町 | （一財）塩尻市振興公社 | 平成30年3月整備済 |
| 1-2 | シェアハウス | en.to | 塩尻市大門三番町 | （同）en.to | 令和6年3整備済 |
| 2-1 | お試し居住施設 | 移住お試し住宅 | 塩尻市大字北小野 | （株）しおじり街元気カンパニー | 令和3年9月整備済 |
| 3-1 | 事業所、工房、宿泊施設 | 森林ハブ拠点 | 塩尻市大字奈良井 | （一社）塩尻市森林公社、 （株）ソルトターミナル | 整備期間令和7年4月～ 令和8年3月 |
| 3-2 | 一棟貸し滞在施設 | 日々別荘 | 塩尻市大字木曾平沢 | （一財）塩尻市振興公社、 （株）しおじり街元気カンパニー | 令和2年11月整備済 |
| 拠点施設関連基盤施設整備事業に関する事項 ※社会資本整備総合交付金（広域連携事業）を活用する場合は、社会資本総合整備計画を提出すること。 | | | | | |
| 社会資本総合整備計画（広域連携事業）の計画名：なし | | | 計画期間：令和一年度～一年度（一年間） | | |
| 拠点施設関連基盤施設整備事業と一体となってその効果を一層高めるために必要な事業又は事務に関する事項 | | | | | |
| その他 | | | | | |
| 長野県総合五か年計画（しあわせ信州創造プラン3.0）、信州未来共創戦略 | | | | | |

特定居住重点地区

※塩尻市の特定居住促進区域の範囲を重点地区の範囲とする



①塩尻市大門地区



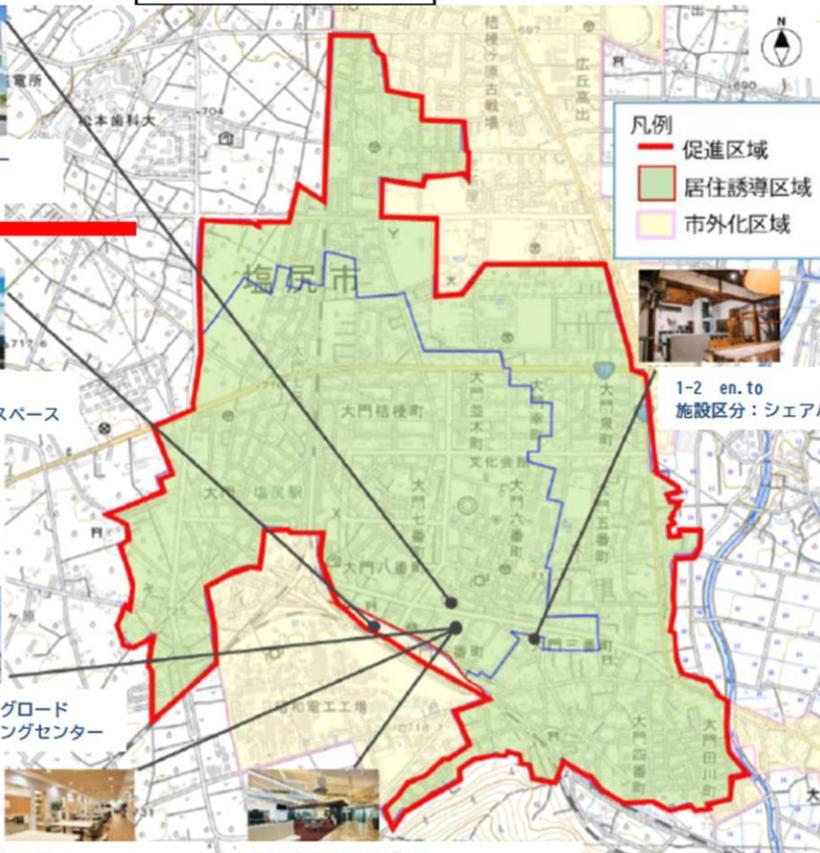
1-3 市民交流センター
施設区分：交流施設



1-1 スナバ
施設区分：コワーキングスペース



【関連施設】ウイングロード
施設区分：ショッピングセンター



- 凡例
- 促進区域
 - 居住誘導区域
 - 市外化区域



1-2 en.to
施設区分：シェアハウス

大門地区の魅力



【関係人口向けプログラムの提供 (MEGURU)】



【自動運転バスや、AIオンデマンドバスの運行など塩尻型MaaSの展開】

【関連施設】KADO
施設区分：自営型テレワーク施設

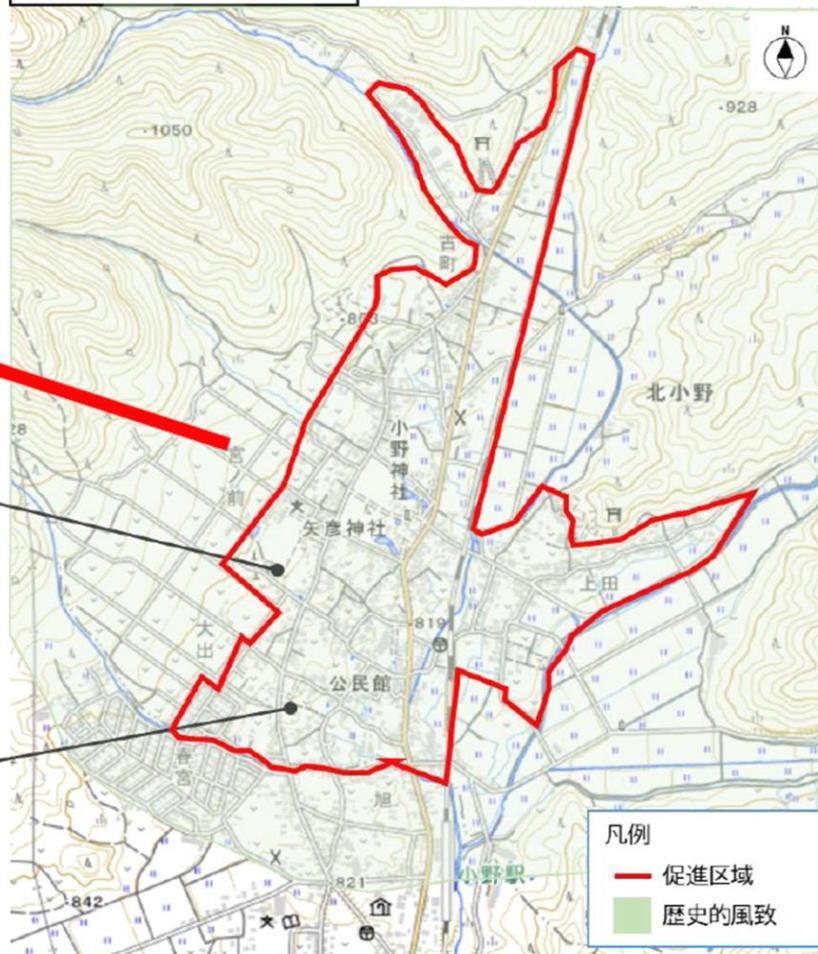
【関連施設】core塩尻
施設区分：交流施設、シェアオフィス

地図：全国都市計画GISビューアより

特定居住重点地区

※塩尻市の特定居住促進区域の範囲を重点地区の範囲とする

②塩尻市北小野地区



北小野地区の魅力



【小野神社祭礼を通じた移住者と地域とのつながり促進】



【塩尻市無形民俗文化財の「ねんじり棒祭り」で豊作祈願】



2-1 移住お試し住宅
施設区分：お試し居住施設



【関連施設】北小野若者定住促進住宅
施設区分：住宅

地図：全国都市計画GISビューアより

特定居住重点地区

※塩尻市の特定居住促進区域の範囲を重点地区の範囲とする



③塩尻市檜川地区



檜川地区の魅力



【伝統的工芸品・木曾漆器は堅牢さと美しさを併せ持ち、「日常使いの漆器」として親しまれる】



【重要伝統的建造物群保存地区である奈良井宿は、歴史文化の保存にとどまらず現在も生活が息づく町】

地図：全国都市計画GISビューアより

二地域居住者への現行の会員サービス

■ 楽園信州ファミリー会員制度

概要

長野県への移住・二地域居住希望者等を「楽園信州ファミリー」として会員登録。会員証の提示により、「楽園信州移住応援企業」の特典や割引サービスが利用可能



対象者

- 登録申請時に長野県外に居住し、長野県への移住または**二地域居住**※を希望している方
- 長野県に**二地域居住**※をしている方
- 登録申込時に長野県外から長野県内に移住して**1年未満**の方。
- 有効期限は、**移住後1年間、移住希望者は3年間**

※「**二地域居住**」とは、長野県外と県内にそれぞれ就労や生活の拠点を有し、県内拠点での滞在期間が年間で1カ月以上となる方(見込みの方も含む)が対象となります。

会員数

1,070人（うち、二地域居住者212人）（R7.1.31時点）

サービス内容

- 移住・二地域居住の前後に役立つ商品・サービスなどの優待
(引越し料金割引、賃貸物件や仲介手数料割引、自動車教習所での料金割引など)
- 移住・二地域居住に関するメールマガジン配信

楽園信州ファミリー会員制度の課題

1 媒体

- ・紙媒体のため、カード送付等の手間がかかる。
- ・利用者はカードを持ち歩く必要があり、紛失の可能性もあり

2 対象者

- ・フォームから自己申告による申し込みのみで会員となれるため、二地域居住をしていること等が**確実ではない**
- ・移住・二地域居住実践者と、希望者が混在してしまっている
- ・長野県への**関わりの深さも不明**
- ・有効期限で更新するため、**二地域居住者等の数の推移や累計が不明**
- ・制度の認知度が低く、**登録が少ない**

3 サービス

- ・利用実績が把握できないため、**メリットを感じるサービスなのか不明**
- ・メルマガ等の情報提供のみで、幅広いSNS等の活用ができない
- ・**双方向のコミュニケーション**ができない
- ・会員同士の**横の連携**を図れない



楽園信州ファミリー Member's Card

長野県への移住応援
[楽園信州ファミリー]
会員募集中!

長野県へ移住したい! 二地域居住したい!
そんなあなたを応援する無料会員制度です。

【会員特典】

1. 移住・二地域居住の前後に役立つ特典引、引越し料金割引、賃貸物件や仲介手数料割引、自動車保険料での料金割引、レンタカー料金割引、宿泊施設での宿泊割引など。
2. 移住・二地域居住に関する情報を提供

【対象者】 次のいずれかに該当する方

- 長野県に移住または二地域居住を希望している方
- 長野県に二地域居住をしている方 ● 登録申請時に長野県外から長野県内に移住して1年未満の方

【申込方法】

- ホームページから簡単申込! ● 裏面の申込用紙を下記のお問合わせ先へFAXまたは郵送により提出

お問い合わせ 長野県企画振興部 信州暮らし推進センター

〒380-8570 長野市大字南長野字幡下 692-2
TEL 026-235-7024 FAX 026-235-7397 E-mail: ip@pref.nagano.lg.jp
発行元 長野県・田舎暮らし「楽園信州」推進協議会

PRチラシ

二地域居住等メンバーシップ制度検討の方向性

目的

※今後具体的に検討していくため、現時点での担当課案を記載

- ・二地域居住等の促進
- ・二地域居住者の数や実態の把握
- ・二地域居住者の県内地域への関わりの促進
- ・二地域居住者や県内経済へのメリット提供
- ・二地域居住者同士、二地域居住者と地域住民をつなぐプラットフォーム化

検討の主な論点

| 課題 | 内容 |
|------------------------------|---|
| 対象者（≠二地域居住者？） | ・本県では二地域居住を関係人口の類型の一つとして整理している。 関係人口や二地域居住はその関わり方の深度や訪問の頻度も多様 ➡対象者をどのような人に設定するか |
| 媒体 | ・現行の紙ではなくDX化が必要 ➡どのような媒体で提供すべきか（アプリ、ライン、NFT etc.） |
| データ把握 | ➡二地域居住者のデータを把握したいが、どのようなデータを把握すべきか。また、それが可能な媒体はどれか ex.人数、属性、関わり方、ニーズ、移動状況 etc. |
| 提供サービスの種類 | ➡二地域居住者や地域経済にメリットがあるサービスは何か。どのように提供すべきか。 ex.割引、特典、ポイント、情報提供、イベント招待 etc. |
| メンバー同士や行政とのネットワーク化とコミュニケーション | ➡県と二地域居住者、地域と二地域居住者、二地域居住者同士など、全方向のコミュニケーションを図る方法はないか ex.交流会、地域への行事の参加、スキルを活かした地域貢献 etc. |

今後の検討に向けて

- ▶本県では、二地域居住促進に向け、現状の会員制度の課題を踏まえ、制度創設の目的を明確化し、本県のニーズに合ったメンバーシップ制度の創設をゼロベースで検討していく予定
- ▶一方、二地域居住促進に向けては、**単なる県のメンバーシップ制度で解決できない、国の制度等に関わる課題があると認識**
- ▶国の「ふるさと住民登録制度」等検討の状況も見つつ、このプラットフォームで、登録制度や地域サービスのあり方等望ましい方向性を見出し、**国の制度検討にも反映できることを期待**

二地域居住促進に当たっての課題

※県内市町村の意見も踏まえて

- ・住民税が入らない一方で、ごみ処理など住民サービスとしてのコストはかかる
- ・子育て支援、福祉など多くの行政サービスで住民票があることが条件であり、二地域居住者に支援が届かない
- ・全国的な二地域居住の実態や数が把握できない。自治体の施策の効果を把握・比較できず、積極的に取り組めない
- ・地域に与える数字に表れない効果があるが、可視化できないため、理解されにくく、取組が進まない

- **二地域居住実践者等が国内どこにいても安心して暮らせることや二地域居住による地域活性化を目指して、今後、皆様と議論させていただき、本県での制度検討にも活かしたい**



誰もがしあわせ (Well-being) を実感できるゆたかな
社会を創るため、私たちができることを共に考えましょう



ご清聴ありがとうございました